



第3回 アドバンスコースセミナー 2019. 05. 25(土) ~26(日)  
会場 「布引温泉こもろ」(長野県小諸市大久保 620-3)



◆ 7グループ 長谷部 孝美  
金沢がん哲学外来

アドバンスコースセミナーでは、グループワークにて、  
①カフェの安心安全な運営 ②スタッフの養成 ③ネット  
ワークの構築 等について話し合いました。

全国統一のカフェのルールを取り決め、カフェ開始  
時に読み上げる事で、スタッフと参加者との共通認識  
が生まれます。ルールを確定することで、養成講座に  
参加出来ないスタッフも心得が意識の中に入っていき  
質の向上となり、カフェの安定運営に繋がります。

もちろん各カフェの個性は存在します。カフェ終了  
後に振り返り会を行いスタッフのつながりを保ち、報  
告書を利用して地域等で事例検討を行えば、小さなカ  
フェも問題を抱え込まずに済みます。

樋野先生からは、頑丈な器を作れば、どのような水  
を注がれても受けることができると教えられました。

カフェ・スタッフの器を整える大切さを皆で考えら  
れた「布引温泉・こもろ」でのひと時でした。

◆ 2グループ 村島 隆太郎  
がん哲学外来浅間対話カフェ

浅間対話カフェは病院内で行われており、スタッフ  
が病院職員のため、平素より、個人情報保護や守秘  
義務については、院内で厳しく言われているため意識  
しておりませんでした。

しかし、対話カフェは一般の方々も参加されている  
場所なので、カフェ内で得た情報を他には漏らさない  
こと・特定の宗教についての勧誘や布教活動は禁止さ  
れていること・営利目的の活動はしてはいけないとい  
うこと等を、カフェ開始時に、出席者にあらためて説  
明していくことが必要と感じました。



樋野ジーンさんも積極的にマジックインクを持って発表  
用の模造紙に書き込んでいます。右はパネリストの方々。



5班の発表です。模造紙を持って応援してくださる安藤先  
生、マイクで発表しているのは片山先生です。

◆ 1グループ 横山 郁子  
がん哲学学校in神戸メディカル・カフェ

今回、30名を超える認定コーディネーターが参加し、  
そのうち半数は初参加とのことでした。逆に言えば半  
数の方は受講歴があり、更新要件の「5年以内にアドバ  
ンスコースを1回以上参加」をクリアしているにも関わ  
らず、参加をされているということです。私は認定コ  
ーディネーターの意識の高さに嬉しい驚きを感じまし  
た。1泊でのグループワークはハードに思えますが、活  
発な意見が交わされ、あっという間に時間が過ぎました。  
参加者が「よりよいがん哲学外来のため」という、同  
じ方向を見ているということが実感できたことが、今  
回のアドバンスコースの一番の成果ではないでしょ  
うか。既に来年のアドバンスコースが楽しみです。

◆ 6グループ 小野 仁美  
企業研修講師・プロコーチ

アドバンスコースが終了した次の日の朝、ベーカ  
リーの前で苗を売っている小学5年生の少年に出会いま  
した。今日は、運動会の代休だそうです。少年の後ろ  
の張り紙に、こんな言葉が書いてありました。【緑を増  
やしながら発展途上国の子供を救おう。売上の全てを  
寄付】テレビで発展途上国の子供たちの映像を観たそ  
うです。その時に、「いま、自分ができることは何だろ  
う」と考えて、お小遣いで種を買ってきて蒔き、自分  
で育てたそうです。やっこのお店の前で売っても良  
いと許可が出たと。少年の行動力に、心が暑くなりま  
した。今回のセミナーで考えさせられたことを、少年  
が示してくれました。「いま自分ができることを、素直  
にただ行動する」これにつきます。

◆ 5グループ 車屋 知美  
福井県済生会病院メディカルカフェ

今回、日頃の活動を振り返り今後の展望についてセミナーの中で何か発見できたら…という思いで参加しました。

がん哲学外来カフェに携わる中で、安心・安全な場の提供、スタッフの養成と質の担保、ネットワークの構築等、どうしたらいいのか？ずっと悩んでいたことは、皆さんが共通して持つ悩みでした。

カフェの開設と運営の背景には各々の思いがあり、地域も違いますが、グループワークで悩みに関して話し共感し合えた時間は楽しく、今後の活力となり、悩みの解決のヒントにもなりました。

他のがん哲学外来カフェと交流し顔を合わせて多様な話をするには、より良いカフェ運営を継続するために必要なことだと考えさせられた二日間でした。

◆ 2グループ 福原 幸子  
柏がん哲学外来

豊かな新緑の小諸で二日間格調高い交流をさせていただきました。草木の美しさに加えて、樋野先生はじめ参加者皆様の熱いハートに感動しました。

ひとつの出会いを通し、そこに至るまでの経緯が実に綿密な計画によって成り立っている事。不都合と思える出来事が、実は巡り巡って他者が幸になるためのお手伝いだと解るとき、自分中心では理解できない不合理が、感謝に変わります。

「空っぽの器」、「センスオブプロポーション」、「犬のおまわりさんの現代的意義」を学び、見逃している沢山の深い真理を理解して、現場に生かしたいと考えております。

クオリティー・オブ・デスを目指して、病気であっても病人ではない輝く人生を、世界中に皆さんと共に伝えていきたいですね。



「東村山カフェではこんなことをやっています」、「ナース部会、今度5周年記念の講演会を開催するのよ」。



42名の参加者でアドバンスコースセミナーは盛況のうちに終了しました。右は会場からの浅間山山系です。

◆ 4グループ 須磨 綾子  
がん哲学外来お茶の水メディカル・カフェ

今回、「人材の育成と質の担保」「安心安全な場」について考えたこと。

人材を育成する為には、がん哲の基本理念をスタッフが共有していること。それがあから、安心安全な場になり得るということでした。

またカフェを運営するコーディネーターの方々が悩みを一人で抱え込まず近隣のカフェの方々と分かち合えるネットワーク作りが重要だと感じました。

話し合う中で、改めて考えさせられた事は、「がん哲学外来」の基本理念を持ち続けることの大切さでした。ここから外れると色々な問題も出てくるのではないのでしょうか。この事をいつも心に留めつつ、これからも活動していきたいと思えます。



午後2時からの開始を待っています。右は3グループの発表。舞台下で北澤先生が司会と計時担当をきっちり！

◆ 3グループ 西田 良春  
一般社団法人 凧のいえ

第3回アドバンスコースセミナーでは、

① カフェの「開設ガイドライン（10項目）」や「立居振舞3ヶ条」を暗誦すること。

② カフェ開催後には必ず振り返り作業をすることが重要ポイントであること。

③ コーディネーター同士の交流の機会を多く設けること。  
の3点を心に刻みました。

①は安全安心なカフェ運営を担保する為の対策の一策であります。

②については、反省と学びによる向上が期待でき、

③については、コーディネーター相互間の慰労と共感の共有により、活動への推進力の維持・発展に繋がるものと考えます。

<編集後記>

・前回のアドバンスコースセミナーは群馬県万座温泉「日進館」で実施されました。3回目の今回は、まずは会場探しからスタート。いつも趣味の会で利用している「布引温泉・こもろ」に決定してヤレヤレ！

・受付開始と同時にあちらこちらで「久しぶりに会えて良かった！」と握手とハグとでにぎやかでした。

・全国から駆け付けてくださった熱意ある認定コーディネーターの皆さまに支えられて二日間に亘るアドバンスコースプログラムを終えることができました。

・開催にあたりご協力とご支援を頂いた皆様に改めて感謝申し上げます。(佐久ひとときカフェ 星野昭江)